



SUBARU

富士重工業株式会社
第84期定時株主総会



対処すべき課題



対処すべき課題

Motion-V

際立とう2020

2011

2014

2020

想定を超えた成長

持続的成長の実現

付加価値経営をさらに高める

スバルブランドを磨く

環境変化への耐性を高める

強い事業構造を創る

2020年ありたい姿

大きくはないが強い特徴を持ち質の高い企業

- お客様からの信頼NO.1
- 高いブランド力
- 業界高位の利益率
- 販売台数110万台+α

持続的に成長し、目指す企業像に到達するために、2つの活動に集中



対処すべき課題

行動指針「Confidence in Motion～信頼と革新～」のもと
全力で以下の課題に取り組んでまいります

1.生産能力の増強

2.販売拡大への対応

3.スバルらしさを追求した商品の拡充

4.人材育成、組織・風土改革

5.CSR活動



対処すべき課題

1.生産能力の増強

S I A

(スバル オブ
インディアナ オート
モーティブ インク)



群馬製作所



平成26年度

生産能力(国内・海外): **82万9千台**

平成28年度

生産能力(国内・海外): **102万6千台**



対処すべき課題

1.生産能力の増強



S I A
(スバル オブ
インディアナ オート
モーティブ インク)

- 「レガシィ」「アウトバック」の増産
- 今後新たに「インプレッサ」、
更に「北米New SUV」の生産を
順次開始することを目指す



対処すべき課題

2.販売拡大への対応

- 米国での好調な販売を維持
- 日本・中国・ロシア・欧州等の各市場で更なる拡販に取り組み、スバルファンを拡大
- 米国・日本を中心にサービス体制の強化



平成27年度

全世界販売台数: **92万8千台**

3.スバルらしさを追求した商品の拡充

- 平成28年度に「Subaru Global Platform」を使用した新型車の投入を計画

「安心と愉しさ」を更に追求

安全面

- トップクラスの安全性評価を堅持
- 運転支援システム「アイサイト」は高速道路での自動運転を視野に開発を推進

環境への
対応

- 内燃機関による環境対応を推進
- プラグインハイブリッドの開発を推進
- 電動化の研究を推進

安全・環境を追求したスバルならではの商品を拡充

4.人材育成、組織・風土改革

人材育成

- 未来を切り拓けるリーダー層
- 困難を突破できる若手や中間層

風土改革

- 多様な人材の活躍できる体制

チャレンジ・個性・創造力を大切にする風土醸成

重要課題

- 女性の活躍推進 ← キャリア形成、仕事の両立を支援

5.CSR活動

- 経営戦略に基づいたCSR活動を実践し、ステークホルダーの皆様に「安心と愉しさ」という価値を提供
- ステークホルダーの皆様からの声を経営戦略に反映



持続可能な社会の実現を目指す



対処すべき課題

第85期(平成27年度)業績見通し

平成27年度

世界販売台数: 92万8千台

連結売上高

過去最高

3兆 300億円

連結営業利益

過去最高

5,030億円

当社の配当方針

- 株主の皆様のご利益を重要な経営課題と位置付け、毎期の業績、投資計画、経営環境を勘案しながら、継続的な配当を基本としつつ、業績連動の考え方を取り入れている
- 連結配当性向20%～40%を基本とし、諸状況を勘案のうえ決定



第85期の配当について

現段階では未定



対処すべき課題

- 1.生産能力の増強
- 2.販売拡大への対応
- 3.スバルらしさを追求した商品の拡充
- 4.人材育成、組織・風土改革
- 5.CSR活動

「存在感と魅力ある企業」へ



SUBARU

富士重工業株式会社
第84期定時株主総会